

# お寺の子ども会 西教寺進徳だより

西教寺蔵本通支坊 2011.10.9 呉市中央 7-7-13 TEL 21-2798 E-mail:nikkou@saikyoji.net

## 確かな地図を準備する

10月から通り報恩講が始まりました。お参り先について、うろ覚えで、多分あそこを曲がるとある家だろうと、地図も持たずにお寺を出て、予定の道を曲がっても家がない場合があります(笑)。約束の時間は迫っていて、地図をとりに帰る時間もなく、どうしてよいやら、そんな時は絶体絶命の大ピンチです。

話は変わりますが、今年八月、白道会大会におこし頂いた尾畑文正(同朋大学学長)さんは、病気のお姉さんを治したい一心で、子どもの頃、家族ぐるみである宗教を信仰されていたそうです(先生はのご出身はお寺ではないそうです)。しかし、その一生懸命な信仰にもかかわらず、伊勢湾台風(1959年、5千人以上がなくなり約3万9千人が負傷)によって、お姉さんは(以下はご著書『親鸞聖人の手紙から』から引用)「あつ



ペットボトルを再利用してポーリング

という間に命終えていきました。頼んでいたものに裏切られた思いでいっぱいになったことを覚えています。しかし、それは宗教に裏切られたというよりも、真実でないものを真実とし、頼るべきでないものを頼っていた、私自身の思いが間に合わなかっただけであったことを後で知らされました。」ということです。

私たちは、「真実でないものを真実とし、頼るべきでないものを頼って」こんなはずではなかった、これからどうしたらよいのだと涙する人生を送ります。

考えてみると、自分の健康、妻や夫、子ども、財産、名誉や地位、すべて別れ手放してゆかねばならないものばかりです。また私たちは、「生きてゆくため」に毎日あくせくと働いています。しかし「パンを食べなければ死にますが、食べても死ぬ」(志慶眞文雄さんの言葉)のです。行き先も知らず、目の前だけ見て歩いているようなものです。仏教では、そのことに気づかず、あてにならないものをあてになるものと思いこんで追いかけまわして生きていること、またそれらと別れ、手放してしまった後、どう生きて良いやら分からないことを「迷っている」といいます。私のように、途中までしか知らないのに、行く先の地図を持たず、それでも自分で勝手に「大丈夫だ」と高を括って生きていること、また「真実ではない道」を、最後までたどり着ける道だと信じて歩いていることを、それらを仏教では「迷っている」といいます。

迷わず最後まで歩いてゆける地図をもっているかどうか、時間のあるうちに準備したいと思いませんか?

**次回は、11月12日(土)9時~10時です。**